

令和6年度農高・農大就農促進対策事業(農高就農促進対策助成)

事業主体名 鹿児島県立伊佐農林高等学校

1 目的

地域農家に対する援農活動、地域農産物PRイベントでの体験学習、さらに先進的農家や農業大学校等の視察研修を通して、地域の農林業及び関連産業への興味・関心をさらに高め、就農意欲の向上を図る。

2 実施状況

(1) 地域農家との協働・交流の実施

農業クラブ役員(3年生4人、2年生4人)が中心となり、農林技術科全学年(43人)で、農林館祭りを開催した。4月の「春の農林館祭り」は野菜苗・草花をメインに開催した。12月は、生活情報科も参加してピザ釜復活などのコーナーも設け「大農林館祭り」として開催した。また、当日は、林業専攻班による高性能林業機械操作競技会や体験ブースも設け、農業生産活動に対する魅力の再発見と、お客様との交流をとおしてコミュニケーション力の向上を図った。実習生産物に関する外部評価をお客様から直に獲得でき、学習意欲の向上につながったようである。



「大農林館祭り」でのピザ販売

(2) 農業・食品関連産業の視察研修

本校の農林技術科2年生では、農業先進地視察研修を毎年実施している。本年度は、出水郡長島町の肉用牛の一貫経営農家と阿久根市の食品加工場と食肉処理工場を訪問した。経営におけるブランド力の重要性や地元農産物の規格外品を利活用した加工品による有益性を認識することができた。また、自分たちが肥育している黒豚の出荷先において豚味噌缶詰の原料肉となるカット処理工程を見学したことで、食肉について理解を深めることができた。視察研修によって、教科学習の充実と一層の学習意欲向上、進路選択の材料となったようである。



農業先進地視察研修

(3) 課題研究発表会の実施

伊佐市文化会館大ホールで課題研究発表会を行い、農林技術科1～3年生(43人)が参加した。発表は2・3年生の専攻班ごとに行い、進級後の専攻班の選択材料にするため1年生もすべてを視聴した。JA北さつま、JAあいら、伊佐市農政・林務耕地課、始良・伊佐地域振興局等から多くの関係者にご出席いただき、本校生徒の学習成果を披露できた。今後の地域活性化につながる第一歩になったように感じる。また、発表後はそれぞれの研究内容をまとめ、課題研究集録の掲載原稿を執筆した。発表および原稿執筆の過程で、データ分析や説明資料作成に関する知識・技能を習得し、専門教科の学習成果に対してさらに自信を深めたようである。



課題研究発表会

3 今後の課題、取組

農林技術科では、2年次から農業類型と林業類型に分かれて、より専門的学習に深みを持たせる学習活動を行う。また、農業類型では、園芸・大家畜・養豚・食品加工の4つの専攻班に分かれて学習を行う。そのため、より一層、関係機関との連携を図りながら、地域の農林業が抱える課題を見極め、それを主体的に解決する能力を育むとともに、体験的学習により得られた知識や技術を十分に生かすことのできる進路選択につなげたい。

地域密着型の伊佐農林高校スタイルを継続し、地域農家との交流活動や各種イベントにおける地域農産物のPR活動、視察研修などで、社会性や指導性を養って行きたい。今後も先進的な取り組みを模索しながら、地域農業の窓口的存在として積極的に学習活動を行っていききたい。